

犬山市男女共同参画に関する意識調査結果

平成 29 年 9 月 21 日

犬 山 市

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、時代の変化にあわせて男女共同参画施策を見直すための基礎資料として、市民の現状、市民の男女共同参画に関する意識を調査するために実施し、今後の施策の方向性を定めることを目的とします。

2. 調査対象及び調査方法

- ① 調査地域 犬山市全域
- ② 調査対象者 市内在住の満20歳以上の男女
- ③ 標本数 2,000人
- ④ 抽出方法 無作為抽出
- ⑤ 調査方法 郵送配布、郵送回収
- ⑥ 調査期間 平成29年6月20日～平成29年7月20日 1か月間

3. 調査票の回収状況

| | |
|-------|--------|
| 有効配布数 | 2,000件 |
| 回収数 | 875件 |
| 回収率 | 43.8% |

4. 報告書の見方

- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの回収数を示している。
- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100.0%にならない場合もある。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合がある。
- ・グラフ・表として示したもののうち、選択肢の文章を簡略化している場合もある。

II. 考察

- **男女の地位の平等感は全国と比べてすべての分野で低い**

男女の地位の平等感をみると、「学校教育の場」以外の分野は男女が「平等」だと感じている人は4割にも達していません。犬山市はすべての分野で「平等」と感じている人の割合が全国と比較して低い状態となっており、各分野での男女平等を推進していく必要があります。

- **仕事や生活においては、理想と現実のギャップが大きく、理想に近づけていくことが必要**

ワーク・ライフ・バランスでは、仕事・家庭生活・個人の生活すべてを優先したいという希望をもっている人が30%近くおり、全国と比べて多い一方で、現実には3%ほどしかその優先度を満たすことができていません。その値は全国よりも低い状態になっています。

また、女性の仕事についての観点では、仕事を辞めない、もしくは一時的にやめてもフルタイムで働くことを理想とする人が、男女とも、また30歳代以外のすべて年齢において5割以上いる一方で、実際にずっと仕事を続けている、一時的にやめてその後フルタイムで働いている女性は3割ほどしかいません。

以上より、ワーク・ライフ・バランスを推進していく必要があります。

- **男女平等のためには社会の「偏見やしきたり、慣習」「制度」を改めるだけでなく、個々の「意識」や「理解」を変えていくことも必要**

男女平等に必要なことをみてみると、「偏見や社会通念、慣習、しきたりを改めること」が男女ともに多くなっています。さらに、男性は制度の改善といった社会環境の改善を求めており、女性は意識や生き方、育て方といった個々の意識改革や生活の改善を求めています。

- **男女共同参画社会実現のためには働き方・生き方の見直しが不可欠**

今後、男女共同参画社会実現のためには、労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方や生き方の見直しをすすめることや、育児や介護などで一度退職した人の再就職支援、仕事が続けられるように家族・地域で支援することに力を入れていくべきだと考える人が多くなっています。今後は企業・地域ぐるみで多様な生き方・働き方の制度改革・意識改革に努めていくことが必要です。

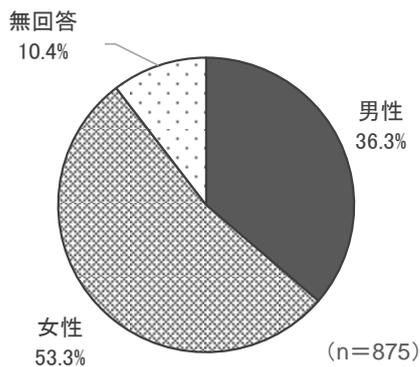
III. 回答者の属性

1. 回答者の属性

1. 性別

回答者の性別は、「男性」が 36.3%、「女性」が 53.3%となっています。

図表 1 回答者の性別

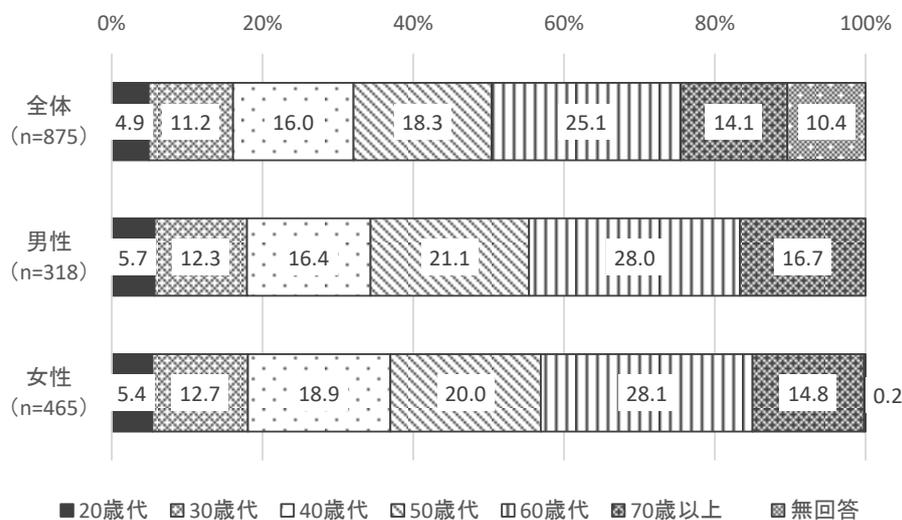


2. 年齢

回答者の年齢では、「60 歳代」が 25.1%と最も多く、次いで「50 歳代」が 18.3%、「40 歳代」が 16.0%となっています。

性別でみると、男女とも「60 歳代」(男性 28.0%、女性 28.1%)、「50 歳代」(男性 21.1%、20.0%) の順で多く、次に女性は「40 歳代」(18.9%) が多いのに対し、男性は「70 歳以上」(16.7%) が多くなっています。

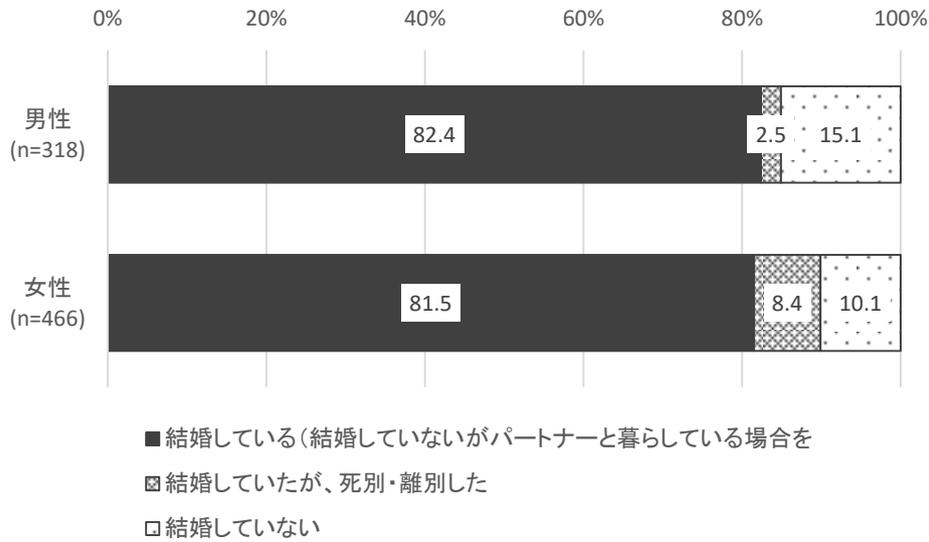
図表 2 回答者の年齢



3. 既婚・未婚

回答者の結婚率は、男性 82.4%、女性 81.5%となっています。男性は未婚が死別・離別を大きく上回るのに対し、女性では未婚と死別・離別は同等の割合になっています。

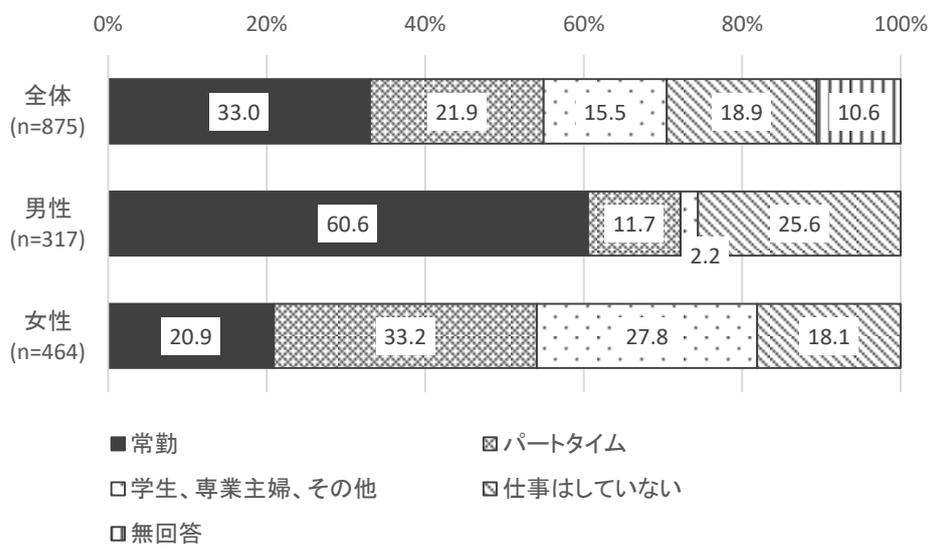
図表 3 結婚の有無



4. 就業状態

回答者の就業状態は、男性は「常勤」で働いている人が 60.6%と最も多く、女性は「パートタイム」が 33.2%と最も多くなっています。

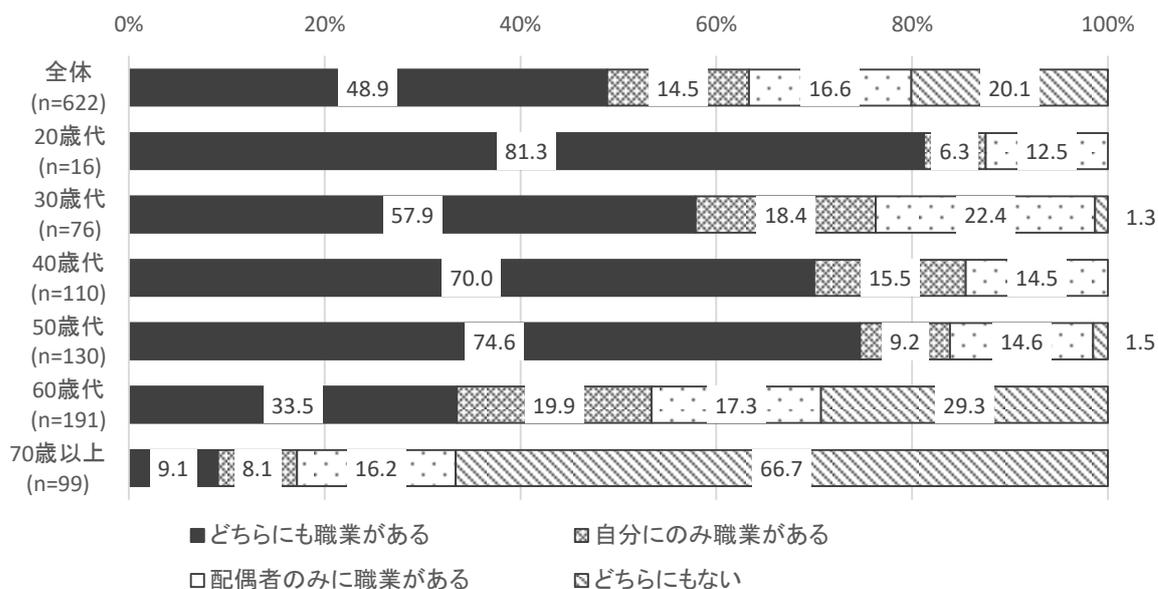
図表 4 就業状態



5. 夫婦の職業の有無

「どちらにも職業がある」割合が高い年代は、「20 歳代」(81.3%)、「50 歳代」(74.6%)、「40 歳代」(70.0%) の順となっています。「どちらにもない」は70 歳以上 (66.7%)、60 歳代 (29.3%) の順で多くなっています。

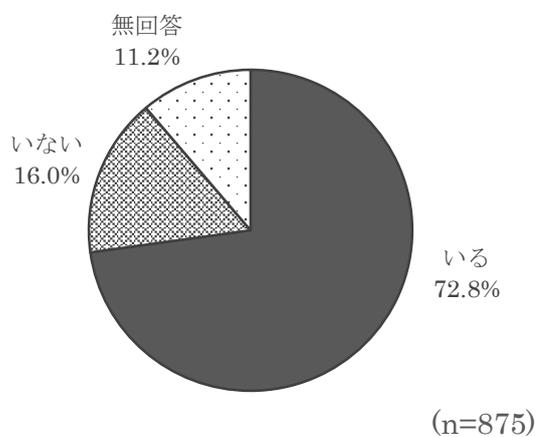
図表 5 夫婦の職業の有無



6. 子どもの有無

回答者の子どもの有無は、「いる」が72.8%と最も多くなっています。

図表 6 子どもの有無



IV. 調査結果

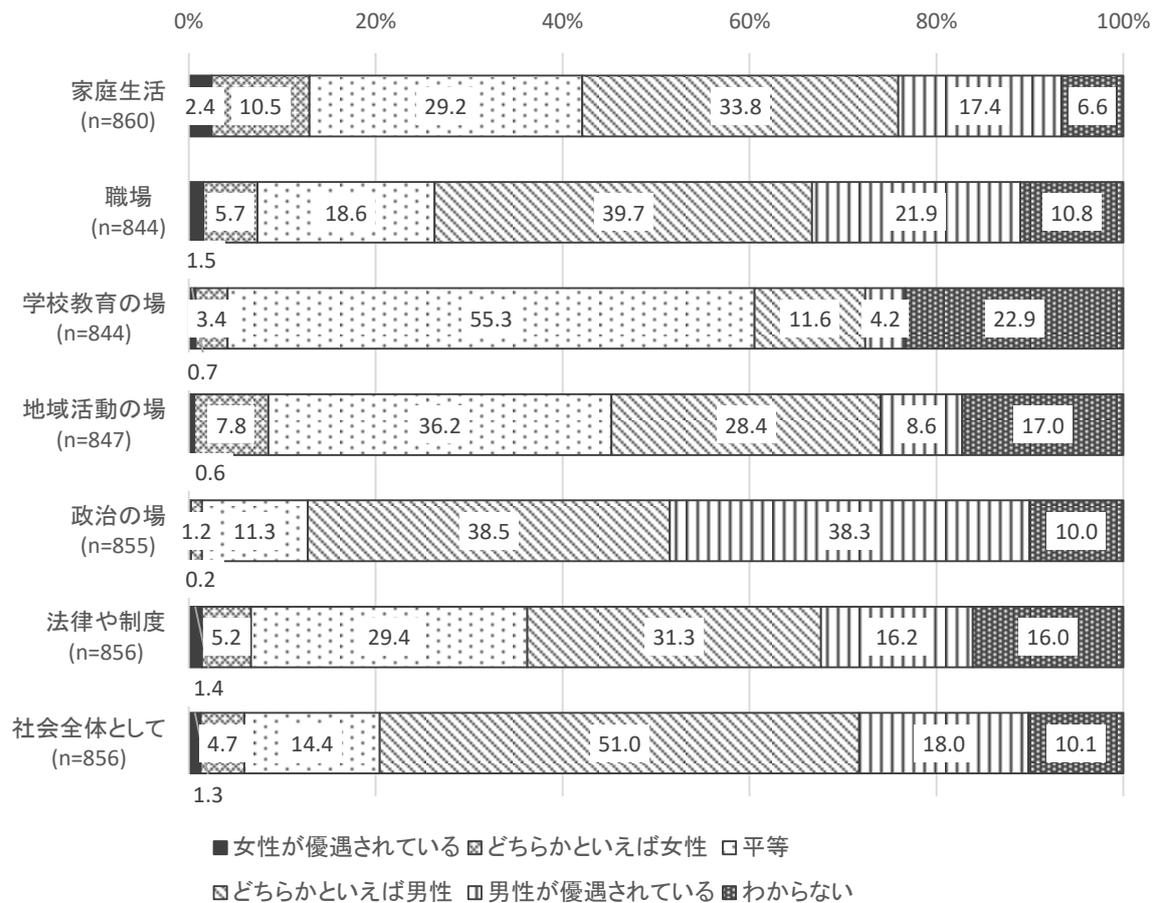
1. 男女の平等意識について

問 1.各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか？

男女の地位の平等について、学校教育の場では、「平等」が 55.3%となっていますが、政治の場での「平等」は 11.3%と最も低くなっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」割合が高い分野は「家庭生活」ですが、両者をあわせた数値は 12.9%と他分野の「男性が優遇されている」割合と比較して低い値です。

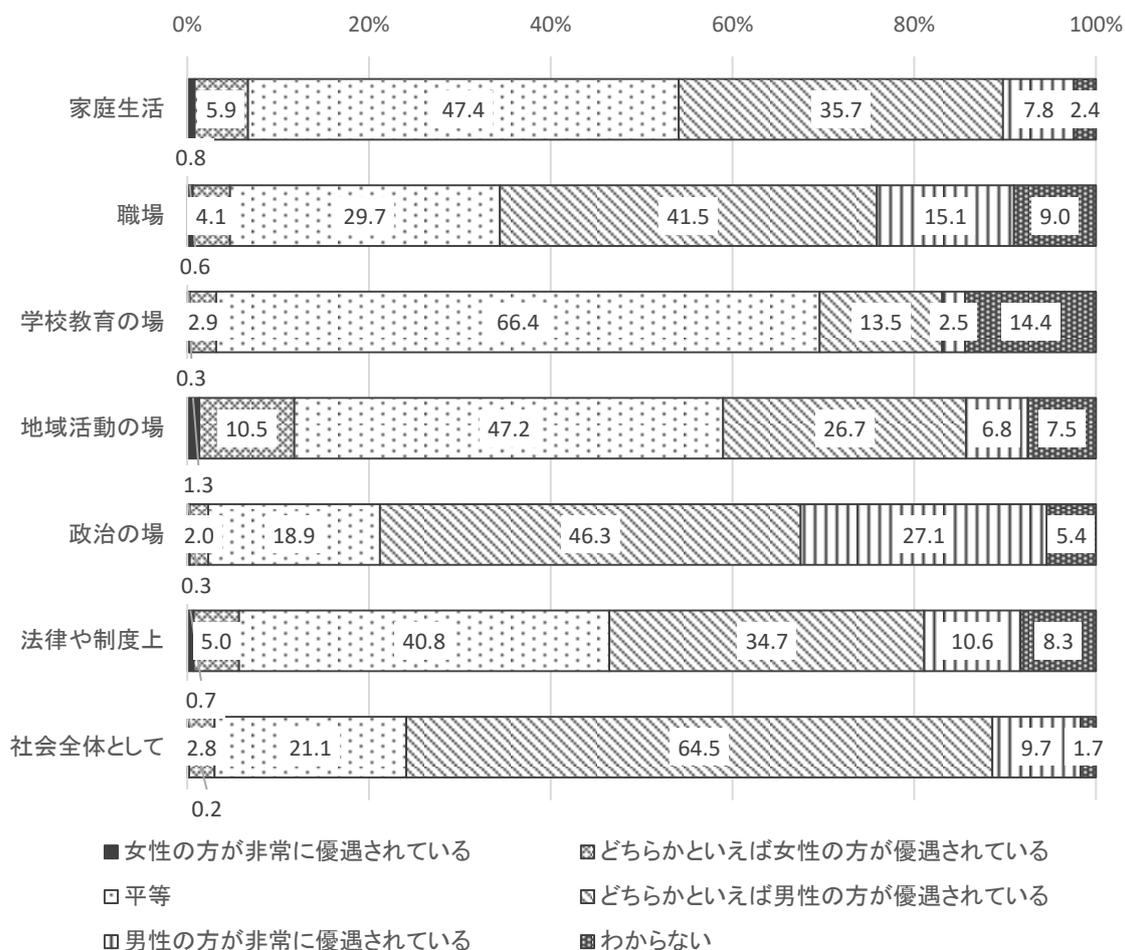
「社会全体として」も「男性が優遇されている」(51.0%)「どちらかといえば男性」(18.0%)と半数以上の人々が「男性が優遇されている」と考えています。

図表 7 各分野の男女平等感



全国の結果と比較してみると、男女が「平等」だと感じている割合はすべての分野で全国の値より下回っています。「家庭生活」「社会全体として」の分野では全国と比較すると犬山市は「女性の方が優遇されている」と感じる割合が高くなっています。

図表 8 各分野の男女平等感 (全国)



「平成 28 年度男女共同参画社会に関する世論調査」より

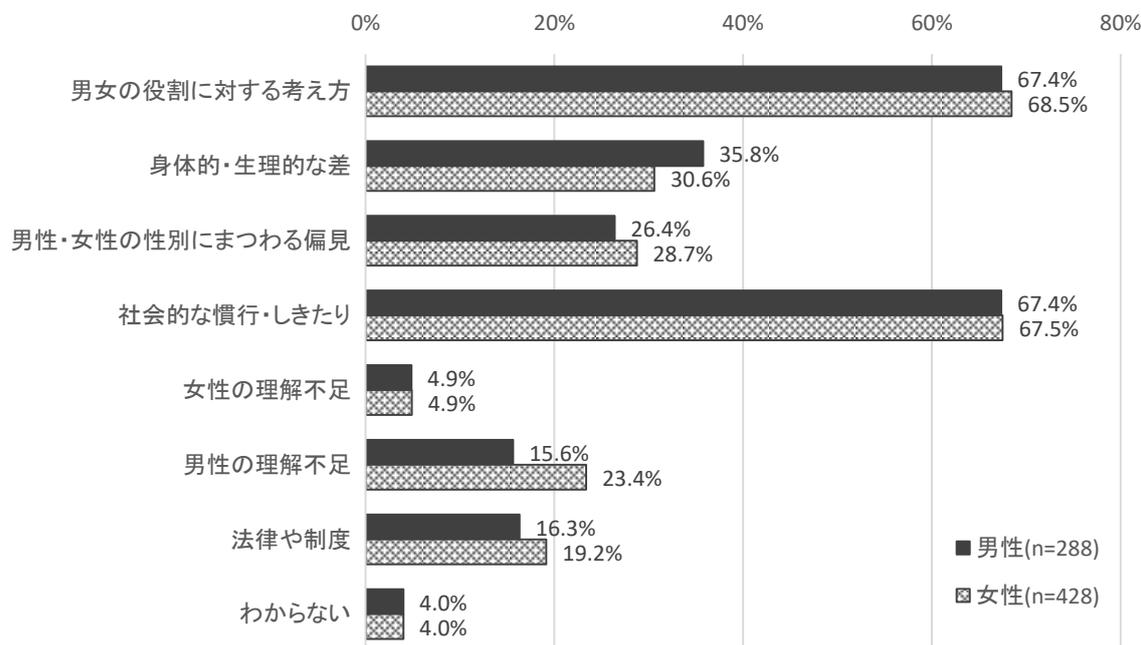
問 2. どちらかが優遇されていると感じられる主な原因を最も近いものに○印をつけてください。(3つまで)

(問 1 でどちらかに優遇されていると選んだ方)

男女ともに「男女の役割に対する考え方」(男性 67.4%、女性 68.5%) が最も多く、次いで「社会的な慣行・しきたり」(男性 67.4%、女性 67.5%) が多くなっています。

男女で差がみられるのは、「身体的・生理的な差」(男性 35.8%、女性 30.6%)、「男性の理解不足」(男性 15.6%、女性 23.4%) です。

図表9 どちらかに優遇されている主な理由

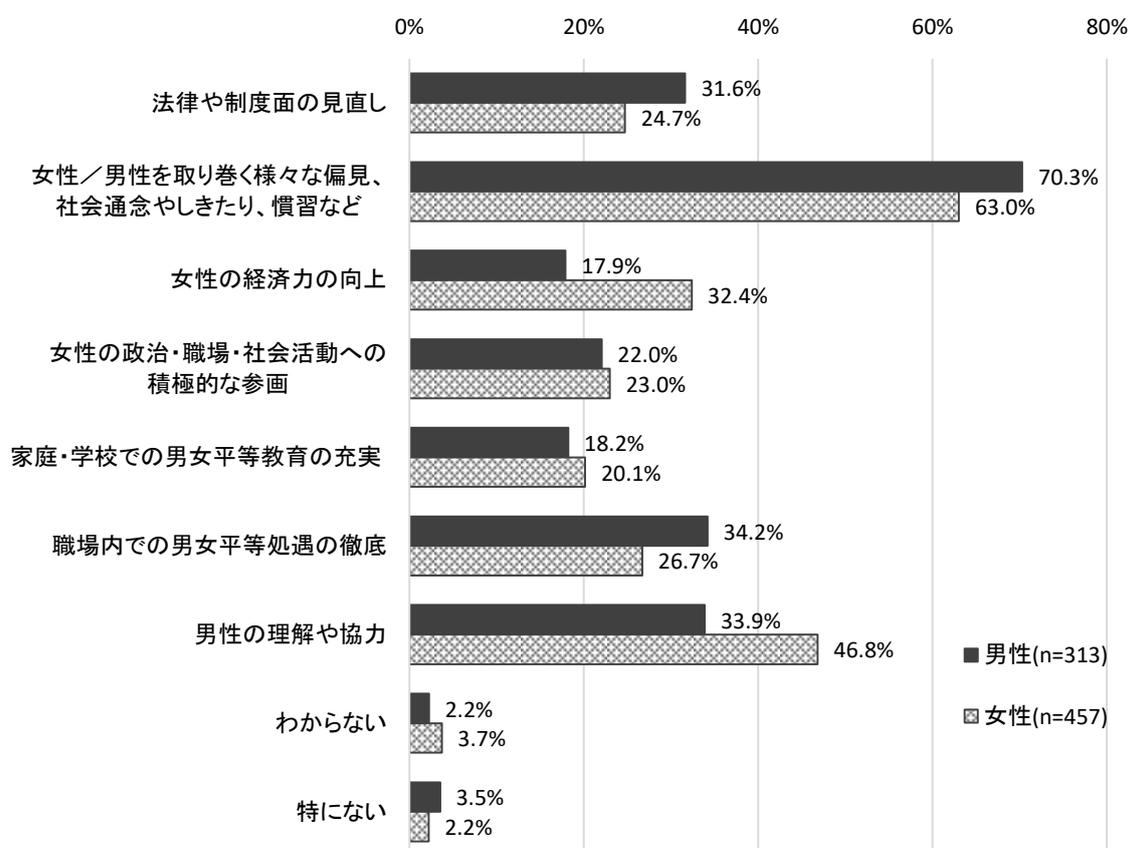


問3.社会のあらゆる分野で男女がもっと平等になるには何が重要だと思いますか？
(3つまで)

男女ともに「女性／男性を取り巻く様々な偏見、社会通念やしきたり、慣習など」(男性 70.3%、女性 63.0%) が最も多くなっています。男性では「職場内での男女平等処遇の徹底」(34.2%)、「男性の理解や協力」(33.9%)と続きますが、女性では「男性の理解や協力」(46.8%)、「女性の経済力の向上」(34.2%)と続いています。

男性と女性とで差がみられるものとしては、「女性の経済力の向上」(男性 17.9%、女性 32.4%)、「男性の理解や協力」(男性 33.9%、女性 46.8%)があります。

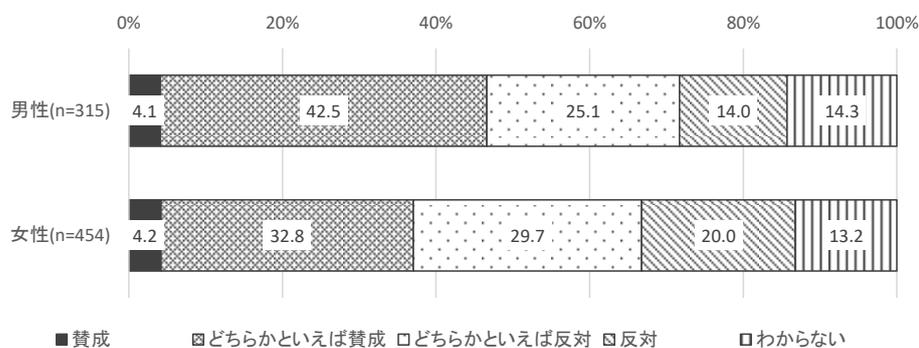
図表 10 男女平等になるために重要なこと



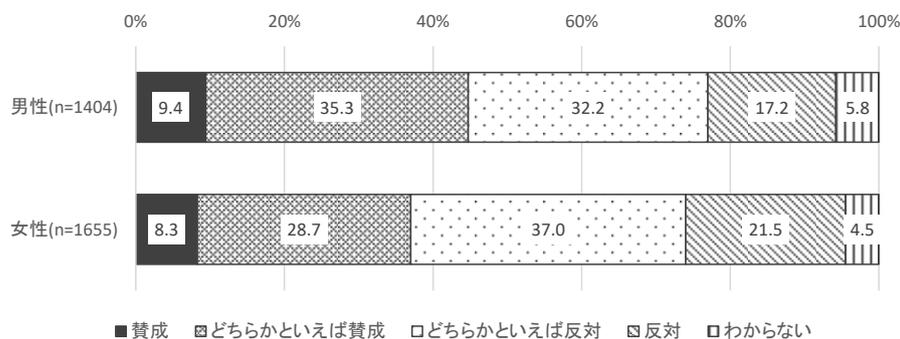
問 4. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについてどう思いますか？

男性では「賛成」(4.1%)「どちらかといえば賛成」(42.5%)が多いのに対して、女性は「反対」(20.0%)「どちらかといえば反対」(29.7%)が多くなっています。

図表 11 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えに対する意識



図表 12 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えに対する意識（全国）

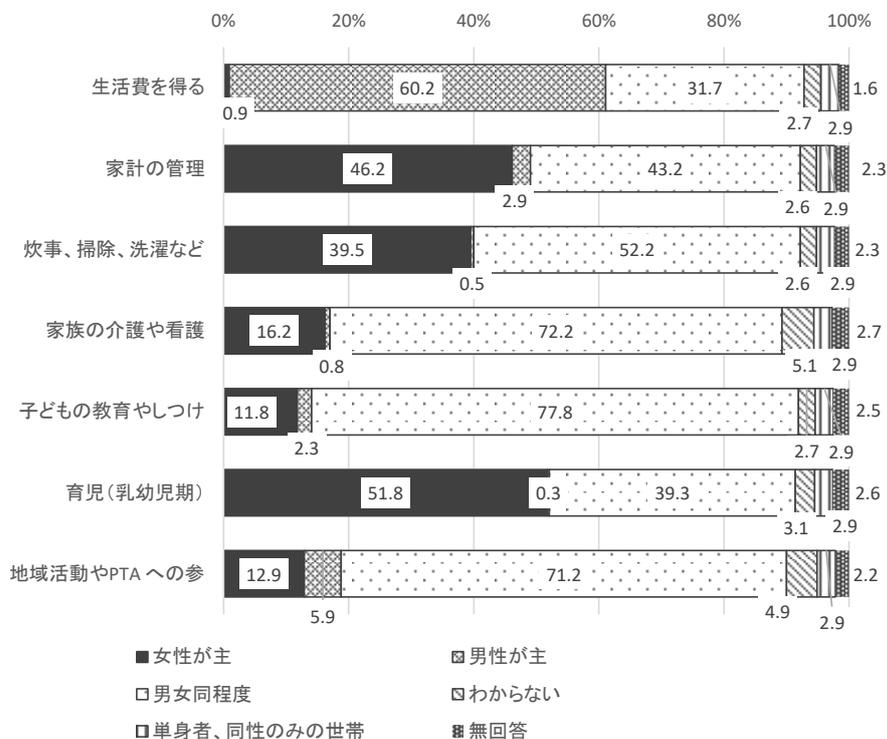


「平成 28 年度男女共同参画社会に関する世論調査」より

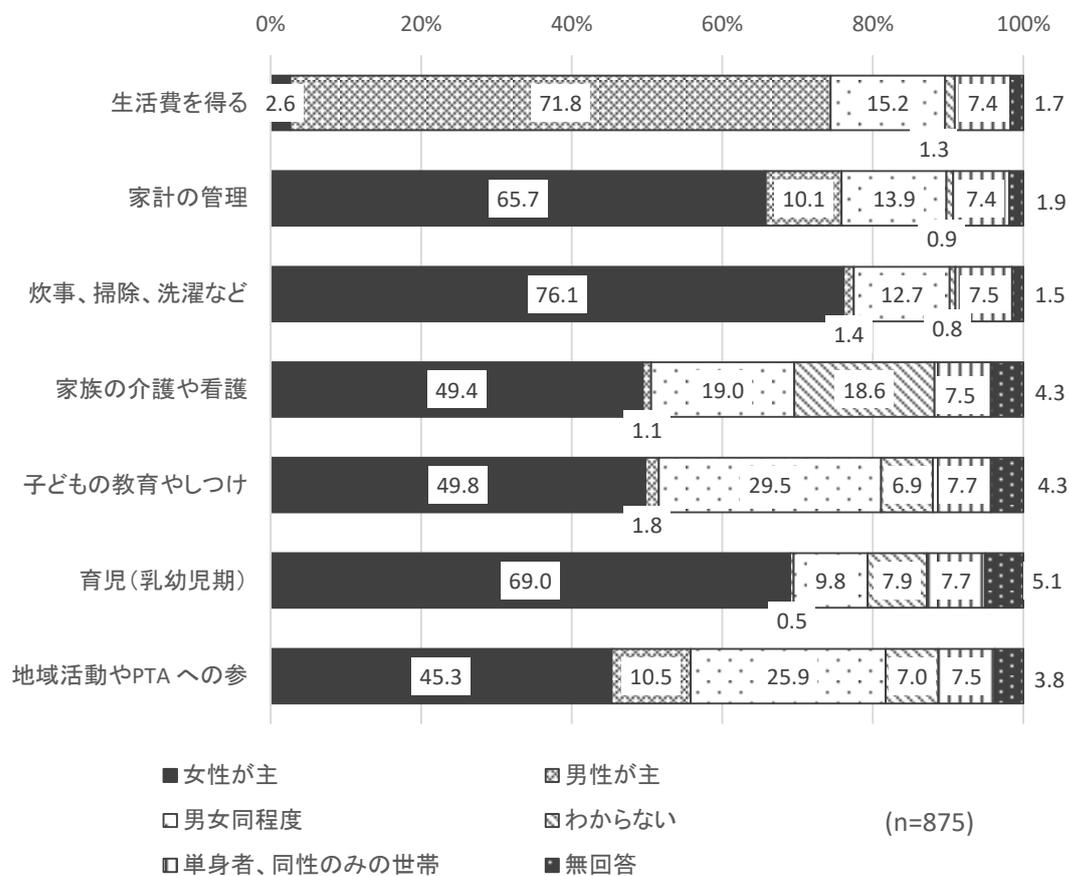
問 5.日常生活における役割分担についてお答えください。

理想とする男女の役割分担で、「男女同程度」との意識が高いのは、「子どもの教育やしつけ」(77.8%)、「家族の介護や看護」(72.2%)、「地域活動やPTA への参加」(71.2%)ですが、実際は「子どもの教育やしつけ」は「女性が主」が 49.8%、「男女同程度」が 29.5%となっています。「家族の介護や看護」は「男女同程度」が 19.0%となっています。

図表 13 理想とする男女の分担



図表 14 実際の家庭での役割分担

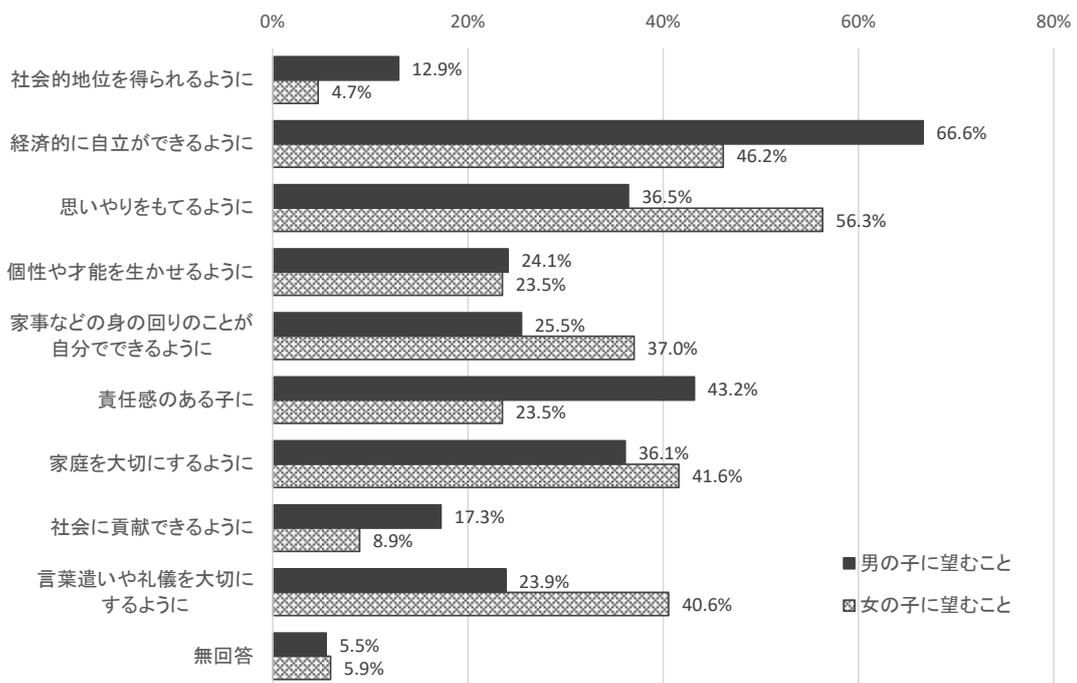


2. 子育て・教育について

問 6. 将来を担う子どもたちに、どのような生き方をしてほしいと思いますか？

「男の子に望むこと」としては「経済的に自立ができるように」が66.6%と最も多く、次いで「責任感のある子に」(43.2%)、「思いやりのもてるように」(36.5%)となっています。一方、「女の子に望むこと」として最も多いのが「思いやりのもてるように」(56.3%)、次いで「経済的に自立ができるように」(46.2%)、「家庭を大切にするように」(41.6%)が多くなっています。

図表 15 子どもに期待する生き方

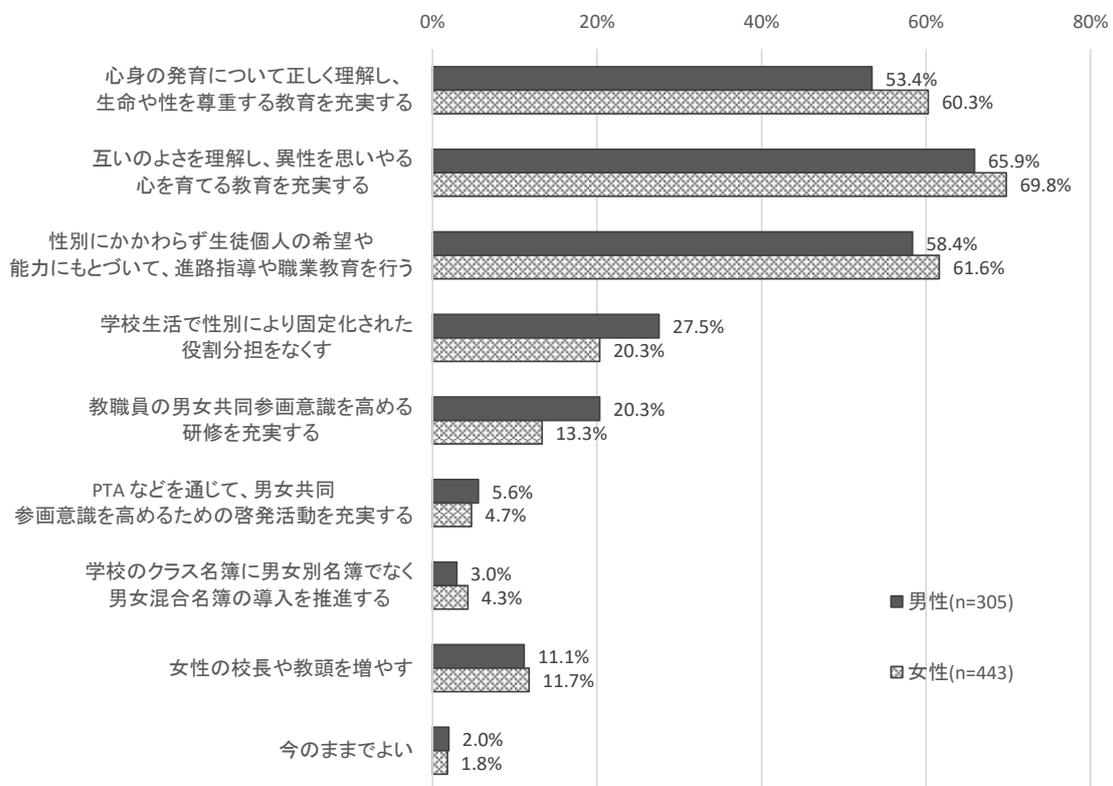


(n=875)

問 7.男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか？（3つまで）

男女ともに「互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」（男性 65.9%、女性 69.8%）が最も多く、次いで「性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う」（男性 58.4%、女性 61.6%）、「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」（男性 53.4%、女性 60.3%）の順となっています。

図表 16 男女共同参画社会実現のために学校教育で大切なこと



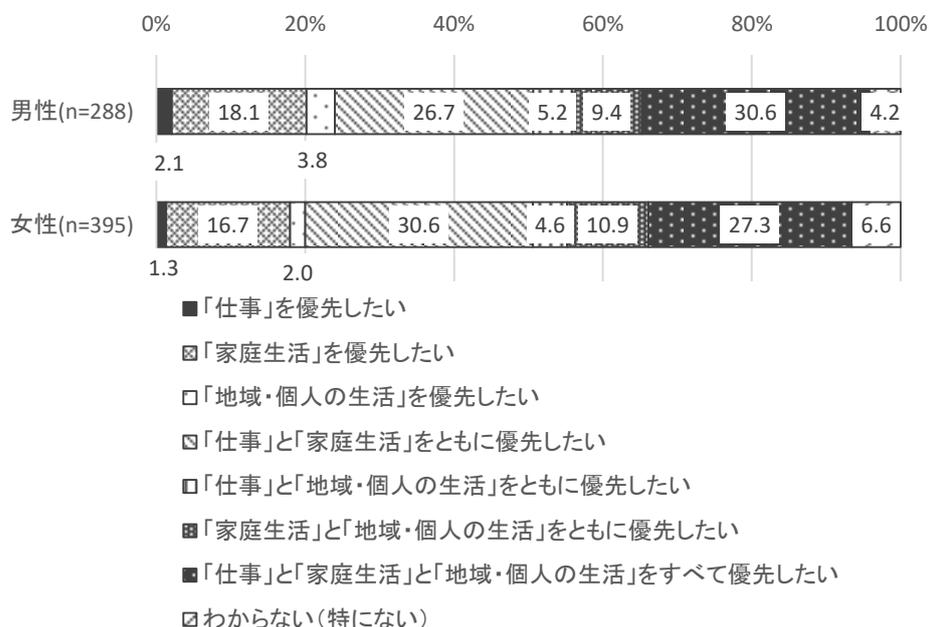
3. ワーク・ライフ・バランスについて

問 8.生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、自分の理想と現実をお答えください。

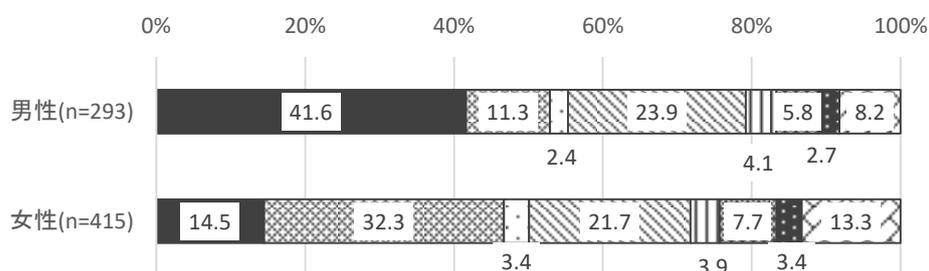
理想としては、男性では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべて優先したい」(30.6%)がもっとも多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先したい」(26.7%)となっています。女性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」(30.6%)がもっとも多く、次いで「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべて優先したい」(27.3%)となっています。

一方、現実としては、男性は「仕事を優先している」(41.6%)が最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」(23.9%)となっています。女性は「家庭生活を優先している」(32.3%)がもっとも多く、「仕事と家庭生活をともに優先している」(21.7%)が続いています。

図表 17 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のかかわり方 ～希望優先度



図表 18 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方 ～現実（現状）

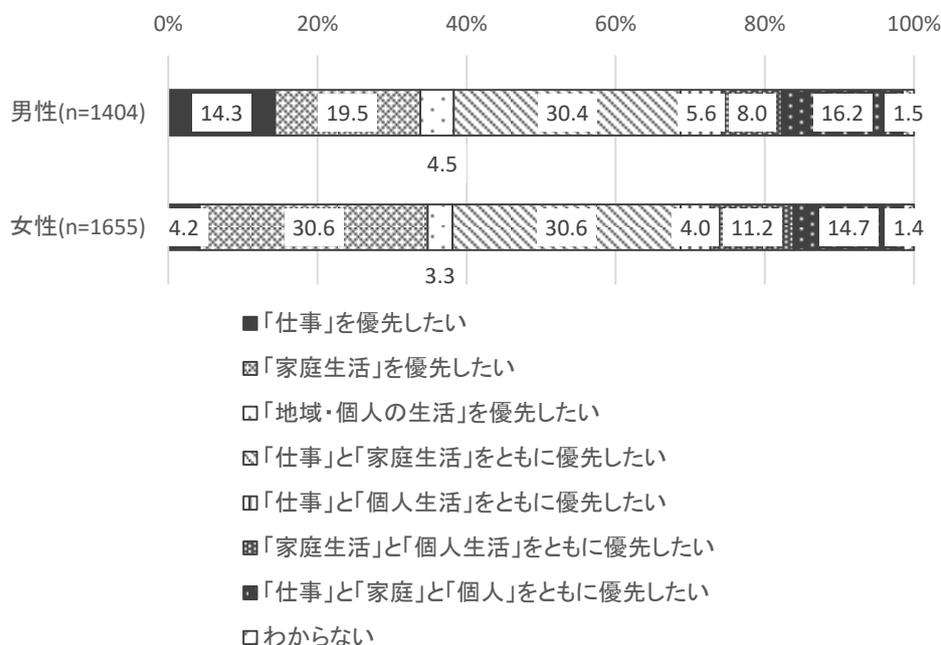


- 「仕事」を優先している
- ▣「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- ▣「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- ▣「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- ▣「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて優先している
- わからない(特にない)

全国と比較してみると、希望優先度の中で大きな違いがみられるのは、男性では「仕事を優先したい」（全国 14.3%、犬山市 2.1%）、「仕事、家庭生活、個人生活すべて優先したい」（全国 16.2%、犬山市 30.6%）となっています。女性では「家庭生活を優先したい」（全国 30.6%、犬山市 16.7%）、「仕事、家庭生活、個人生活すべて優先したい」（全国 14.7%、犬山市 37.3%）において大きな違いがみられます。今回の犬山市の調査では男女ともに「すべてを優先したい」と考える割合が全国と比較して高くなっています。

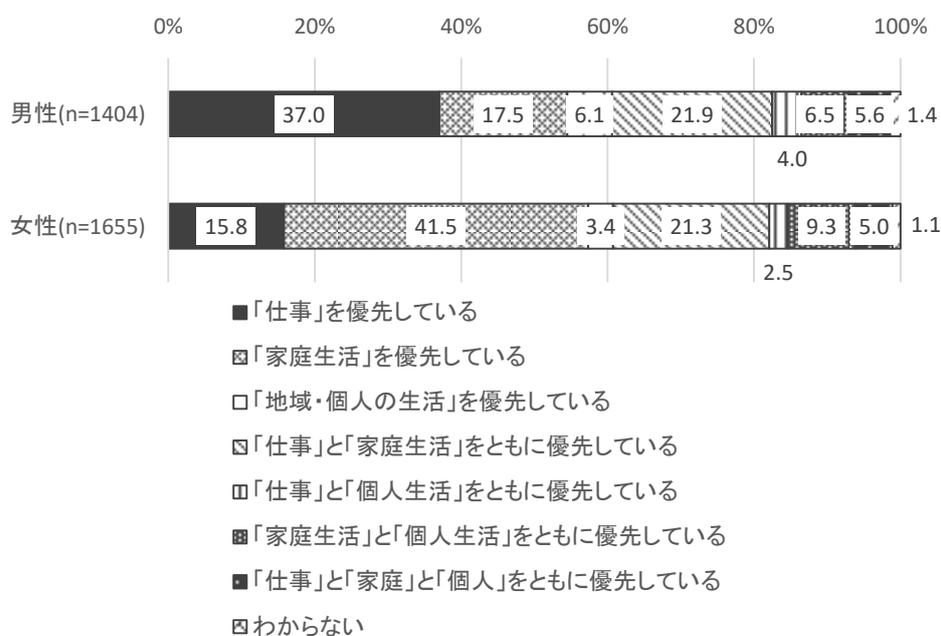
しかし、現実では「すべてを優先している」割合は全国（男性 5.6%、女性 5.0%）と比較して犬山市（男性 2.7%、女性 3.4%）は低くなっています。

図表 19 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のかかわり方 ～希望優先度 (全国)



「平成 28 年度男女共同参画社会に関する世論調査」より

図表 20 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のかかわり方 ～現実 (全国)



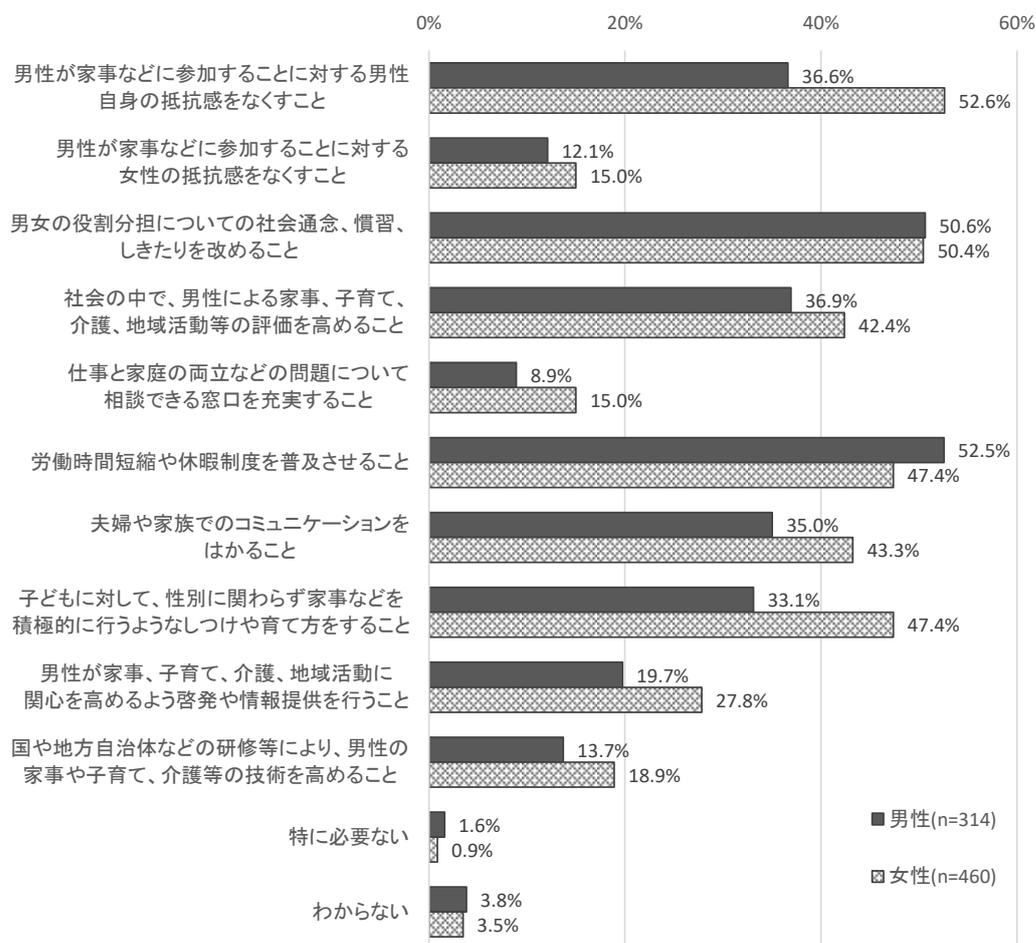
「平成 28 年度男女共同参画社会に関する世論調査」より

問 9. 今後、男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことは何ですか？

男女がともに参加するために必要なこととして、男性は「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(52.5%)と最も多く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(50.6%)となっています。女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(52.6%)と最も多く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(50.4%)となっています。

男女で大きさ違いがみられるのは、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(男性 36.6%、女性 52.6%)、「子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようなしつけや育て方をすること」(男性 33.1%、女性 47.4%)である。

図表 21 男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと



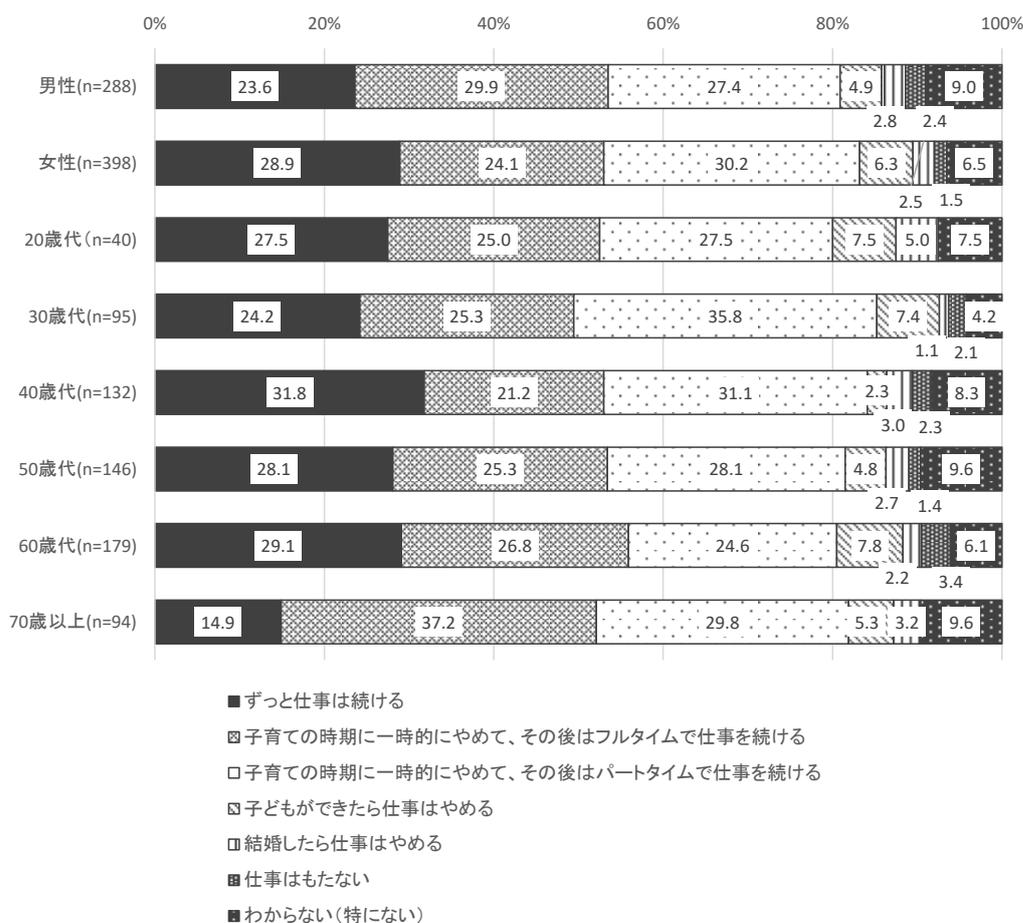
4. 就労について

問10.女性の仕事について、理想と現実に一番近いものをお答えください。

女性の仕事に対する理想は、男性で最も多いのは「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(29.9%)であり、次いで「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(27.4%)となっています。女性は「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(30.2%)が最も多く、次いで「ずっと仕事を続ける」(28.9%)となっています。

年齢別でみてみると、30歳代は「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(35.8%)が最も多いですが、20歳代50歳代は「ずっと仕事を続ける」「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が同割合、40歳代60歳代は「ずっと仕事を続ける」が最も多くなっています。

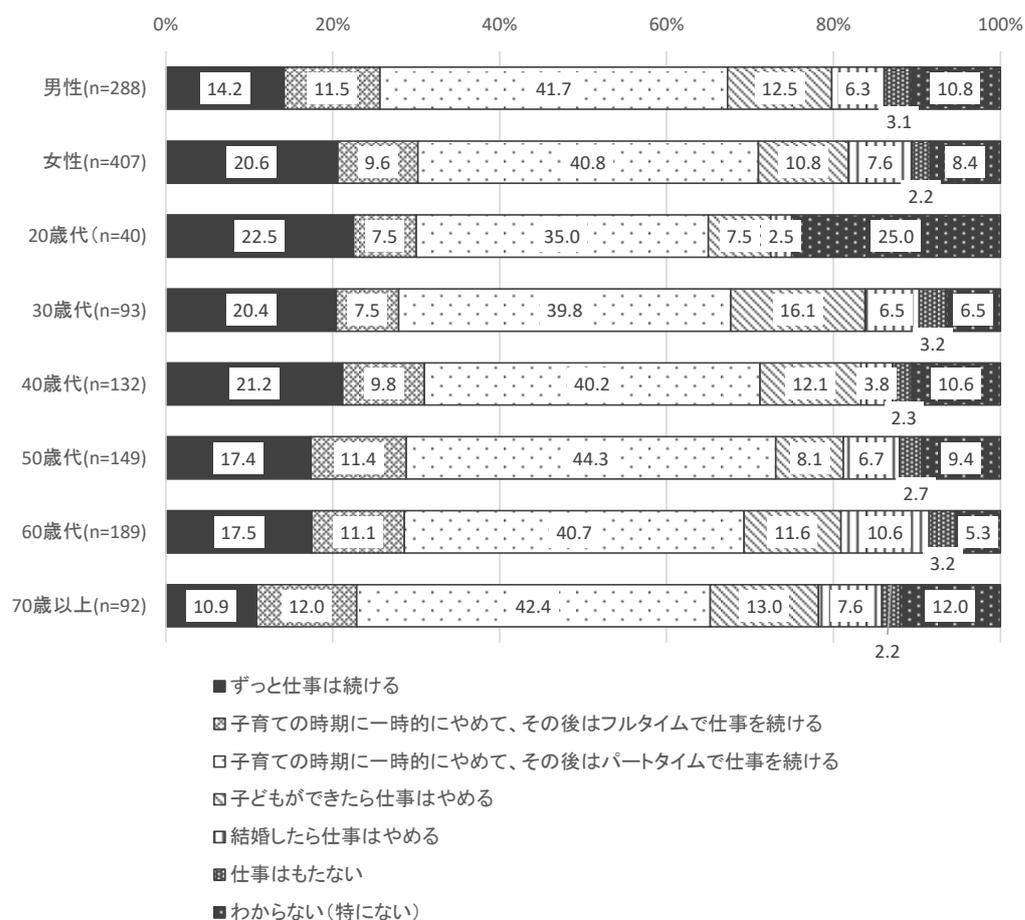
図表 22 女性の仕事に対する考え



一方、現実としては男女とも、またすべての年齢別において、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで続ける」が最も多くなっています。

30歳代以降は、理想と比較して「子どもができれば仕事はやめる」割合が高くなっています。

図表 23 女性の仕事の現実

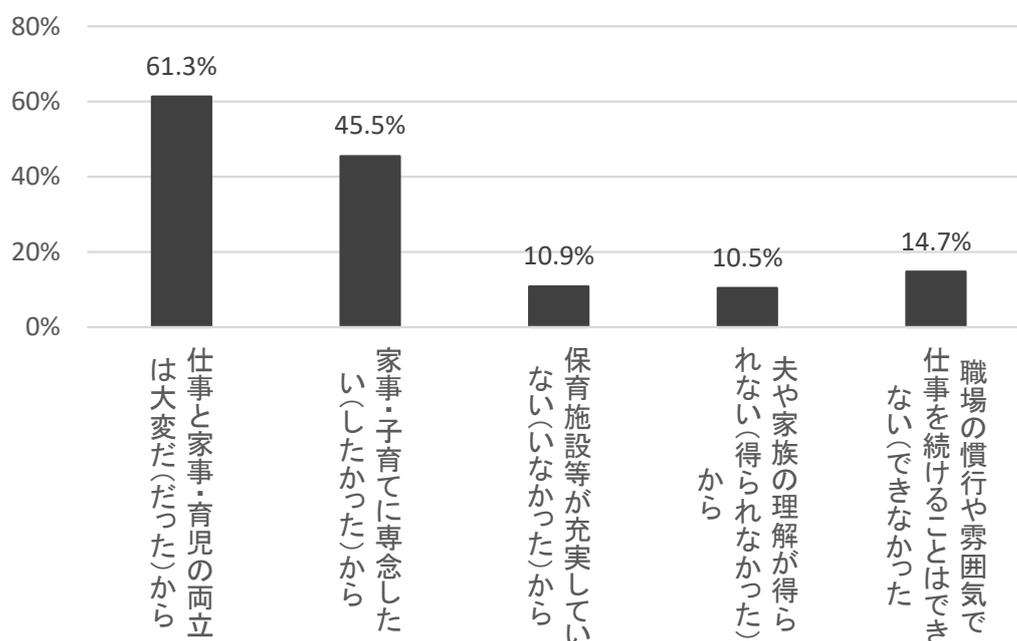


問 1 1. 結婚や育児を期に仕事をやめた、あるいは仕事をもたなかった理由は何ですか？

(問 1 0. 現実で「ずっと仕事は続ける」あるいは「わからない」を選んだ方以外)

仕事を辞めた理由としては、「仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から」が 61.3%と最も多く、次いで「家事・子育てに専念したい(したかった)から」が 45.5%と続いています。

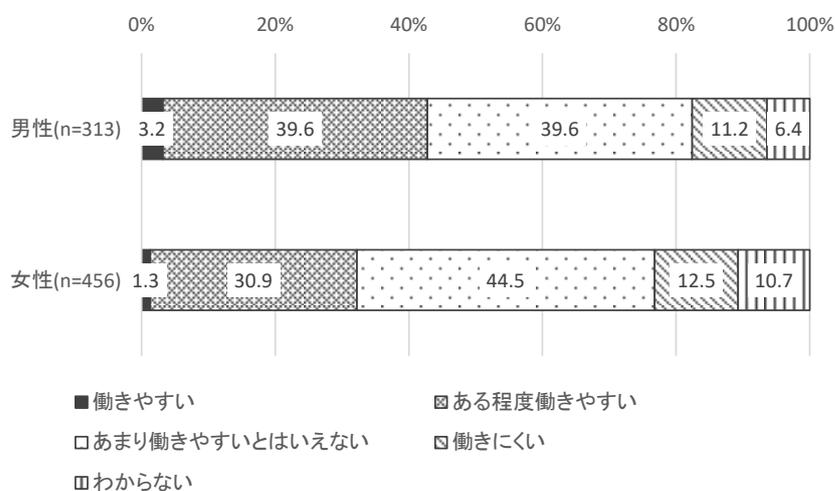
図表 24 仕事を辞めた（一時的に辞めた）理由



問 1 2. 社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか？

女性の働きやすさについては、「働きやすい」と答えた人は、男性が 42.8%（「働きやすい」「ある程度働きやすい」の計）、女性が 32.2%となっています。「働きにくい」と答えた人は、男性が 50.8%（「あまり働きやすいとはいえない」「働きにくい」の計）、女性が 57.0%となっています。

図表 25 社会全体の女性の働きやすさ

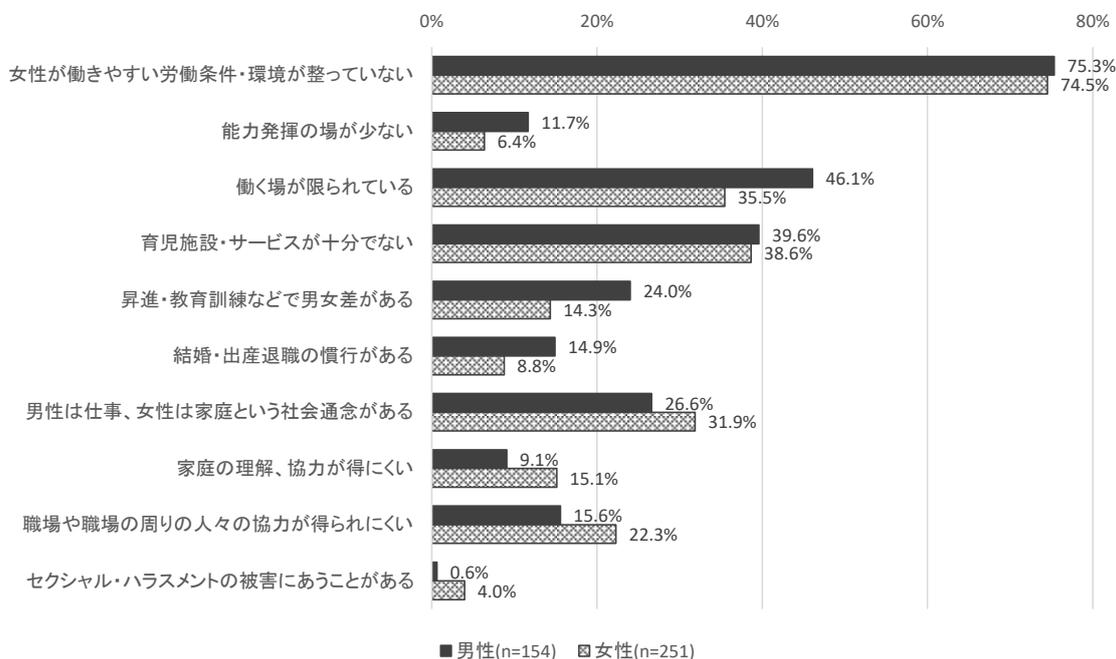


問 1 3.働きやすいとはいえない・働きにくい理由は何ですか？（〇は3つまで）

（問 12 で「働きにくい」「あまり働きやすいとはいえない」を選んだ方）

女性が働きにくい・働きやすいとはいえない理由として、男女ともに「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」（男性 75.3%、女性 74.5%）が最も多く、次いで男性では「働く場が限られている」（46.1%）、女性は「育児施設・サービスが十分でない」（38.6%）となっています。

図表 26 女性が働きにくい理由

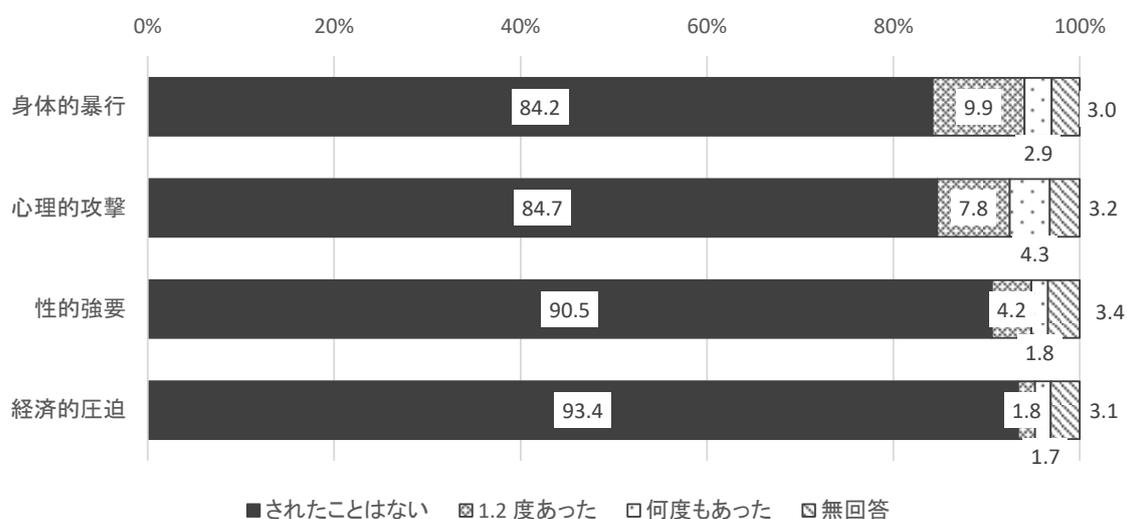


5. 人権について

問 1 4.あなたは配偶者（夫や妻）や交際相手に、次のような行為をされたことがありますか？

配偶者・交際相手からの被害の経験がある（「1.2度あった」「何度もあった」の計）のは、身体的暴行が 12.8%、心理的攻撃が 12.1%、性的強要が 6.0%、経済的圧迫が 3.5%となっています。

図表 27 配偶者・交際相手からの被害経験

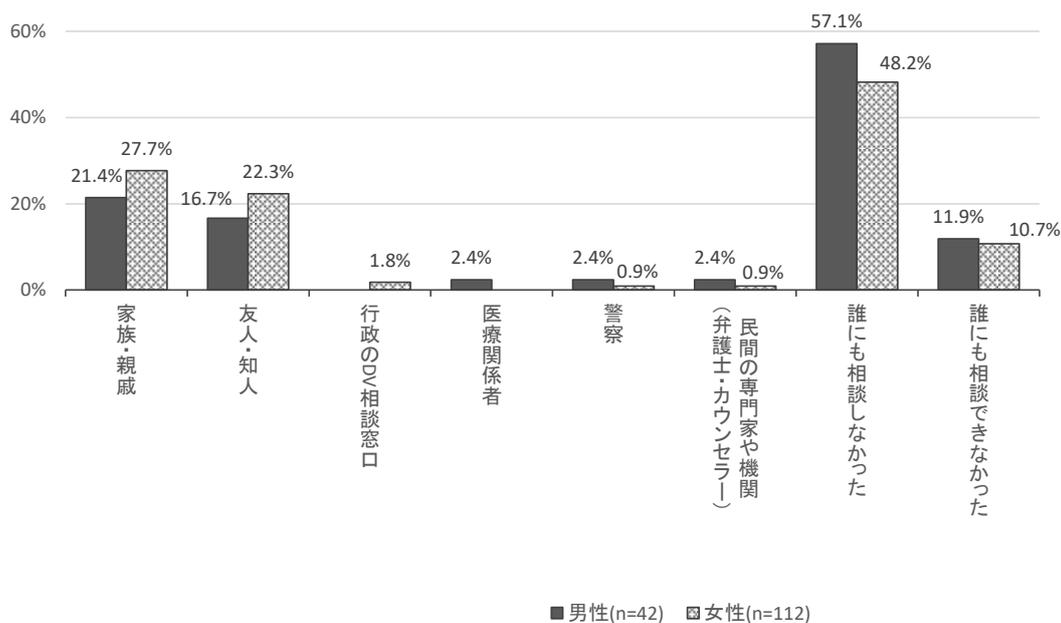


問 15.被害経験のある方は、どこ（誰）に相談しましたか？（〇はいくつでも）

（問 14 のいずれかで「1・2度あった」「何度もあった」を選んだ方）

男女ともに最も多かったのが「誰にも相談しなかった」（男性 57.1%、女性 48.2%）、次いで「家族・親戚」（男性 21.4%、女性 27.7%）、友人・知人（男性 16.7%、女性 22.3%）となっています。

図表 28 被害の相談先

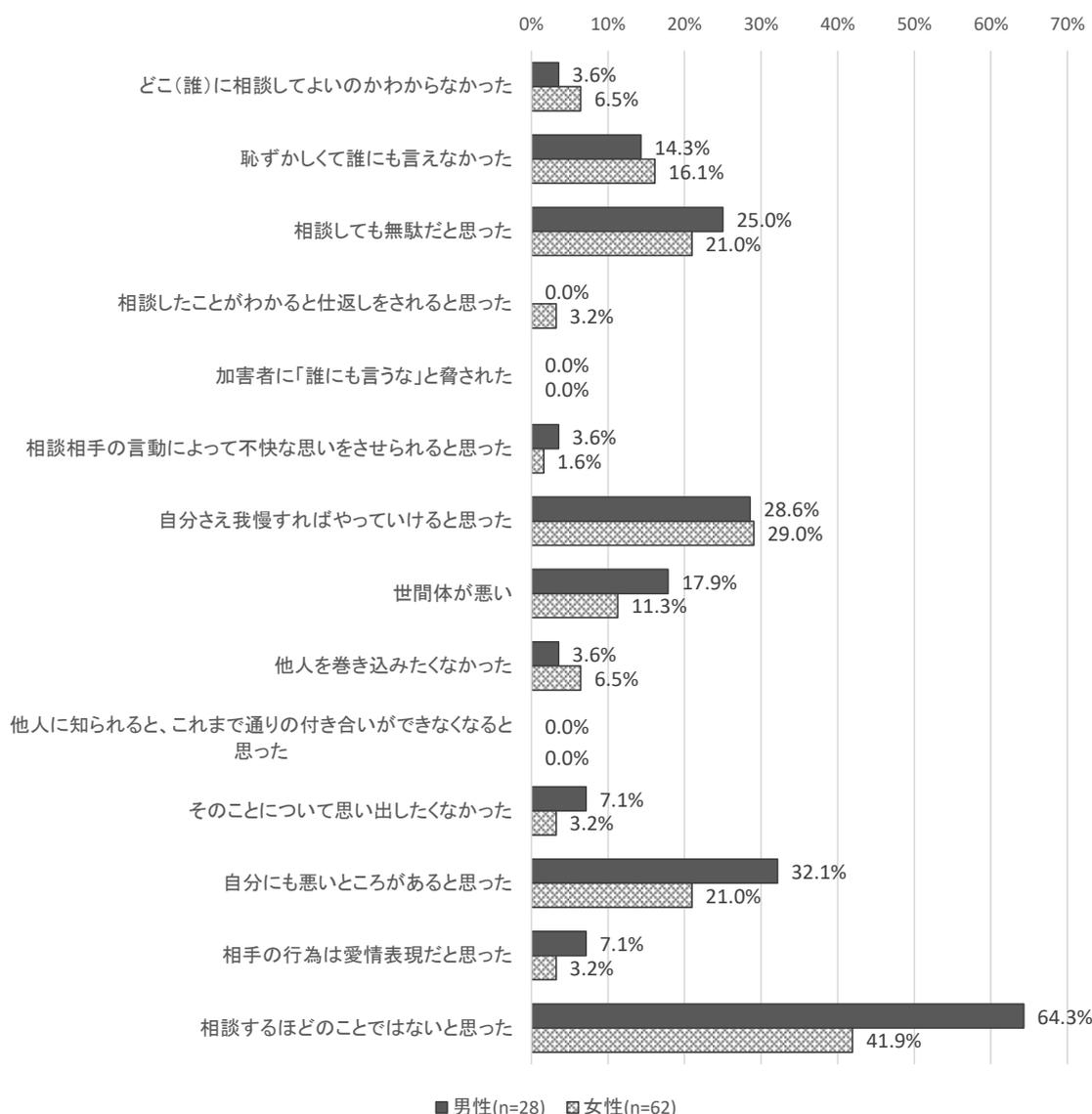


問16.誰にも相談しなかった（できなかった）理由は何ですか？（〇はいくつでも）

（問15で「誰にも相談しなかった」「誰にも相談できなかった」を選んだ方）

「誰にも相談しなかった・できなかった理由」として、男女ともに「相談するほどのことではないと思った」（男性64.3%、女性41.9%）が最も多く、次いで、男性では「自分にも悪いところがあると思った」（32.1%）、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」（28.6%）が多くなっています。女性は「自分さえ我慢すればやっていけると思った」（29.0%）、「相談しても無駄だと思った」「自分にも悪いところがあると思った」（ともに21.0%）が続く結果になっています。

図表29 誰にも相談しなかった（できなかった）理由

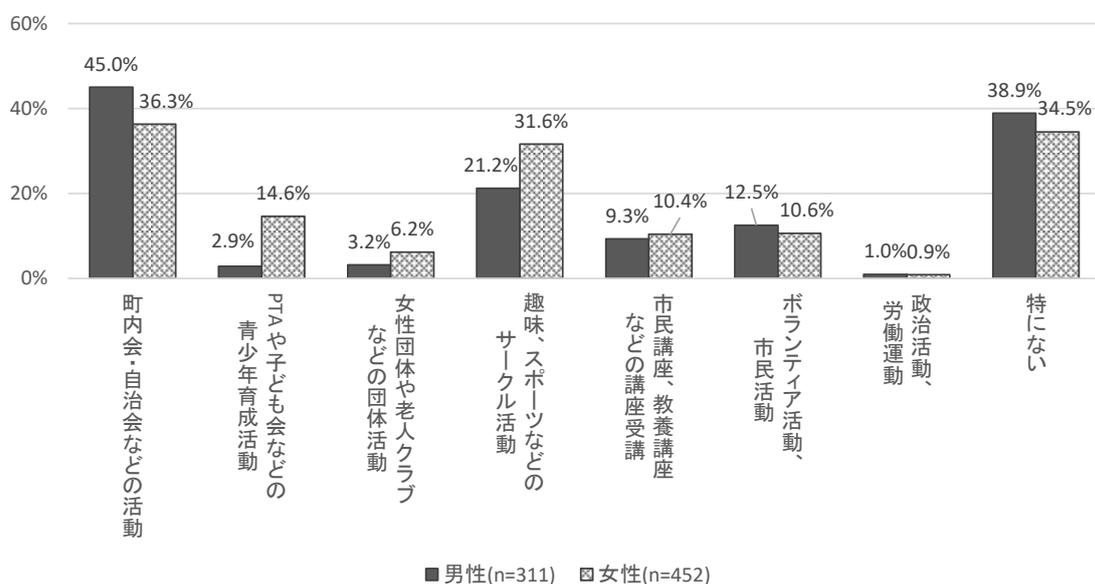


6. 社会参加について

問 17. 現在、どのような活動に参加していますか？（〇はいくつでも）

現在参加している活動は、男女ともに最も多いのが「町内会・自治会などの活動」（男性 45.0%、女性 36.3%）、次いで「特にない」（男性 38.9%、女性 34.5%）、「趣味、スポーツなどのサークル活動」（男性 21.2%、女性 31.6%）となっています。

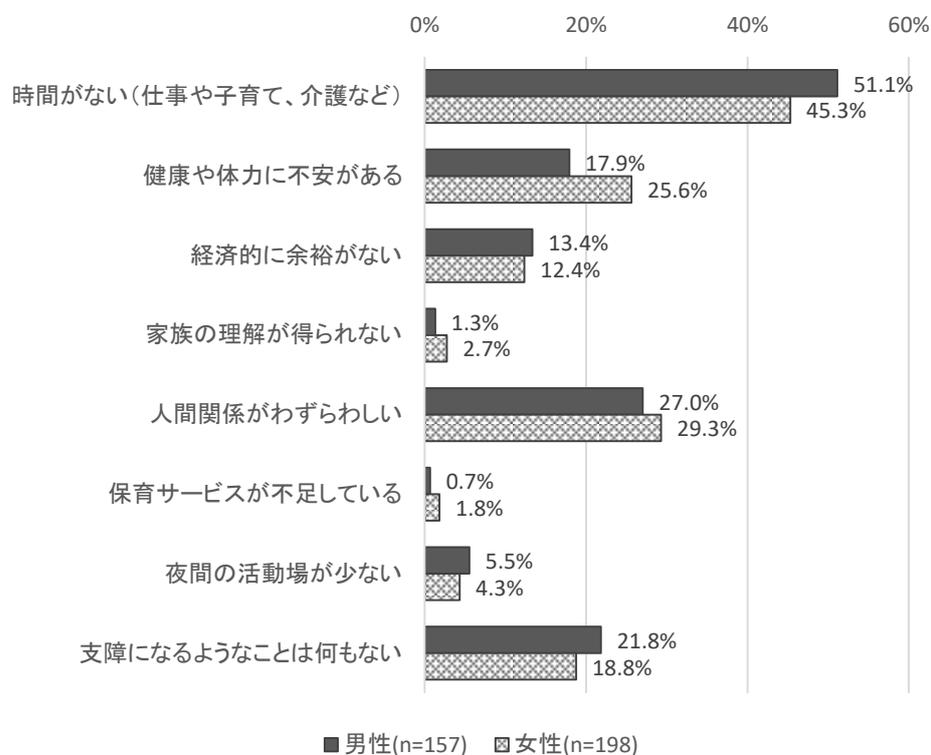
図表 30 現在参加している活動



問 18. 地域社会の活動に参加するにあたって、支障になるようなことはありますか？（〇は2つまで）

活動参加に支障になることとして、男女ともに「時間がない（仕事や子育て、介護など）」（男性 51.1%、女性 45.3%）が最も多く、次いで男女とも「人間関係がわずらわしい」（男性 27.0%、女性 29.3%）が続いています。

図表 31 活動参加に支障になること



7. 今後の取り組みについて

問19.男女共同参画社会を実現するために、今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか？（〇は3つまで）

男女共同参画社会実現のために力をいれていくべきことの上位3項目は、男性では「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女が共に生き方の見直しを進める」(38.4%)、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(37.4%)、「仕事が続けられるよう子育てや介護を家族、地域で支援する」(34.3%)、女性では「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女が共に生き方の見直しを進める」(44.0%)、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(39.4%)、「保育の施設・サービス、高齢者や病人介護を充実する」(38.3%)となっています。

図表 32 男女共同参画社会実現のために力を入れていくべきこと

